

Mutsumi

睦眉会会報

発行者

徳島大学睦眉会

徳島大学医学部保健学科同窓会

徳島県徳島市蔵本町3-18-15 〒770-8509

徳島大学医学部保健学科内

TEL/FAX:088-633-9067

E-mail: mutsumi.jim@gmail.com

発行責任者 久米博子



保健学科長挨拶

睦眉会の会員の皆様におかれましては、ますますご活躍のことと存じます。日頃は本学の教育や研究について多大なご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。また、保健学科における国際交流事業にもご理解いただき、心温まるご寄附をいただいておりますこと厚く御礼申し上げます。さて、この度、徳島大学医学部は、80周年を迎えることとなりました。80周年に際して、80周年記念行事(80周年記念式典、80年史発行、学生支援事業等)が実施されつつあります。皆様のご支援・ご寄附に心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、令和5年度入学式も、令和4年度に引き続き対面で開催することができました。授業に関しても、まだ一部遠隔授業も残っておりますが、ほとんどの授業が対面開講となり、日常が戻りつつあると感じています。新型コロナウイルス感染症への対応が緩和されるに伴い、インフルエンザも流行しており、予断は許さない状況ではあります。気を緩めることなく、感染対策をしっかり行う必要性を感じているところであります。

徳島大学医学部保健学科長
徳島大学大学院保健科学研究科長

森 健治



2023年8月には大学院保健科学研究科の入学試験が行われました。たくさんの受験生に受験していただきました。2024年4月からは入学された皆さんとともに活発な研究活動を行っていきたいと思っています。そして大学院生による研究の発展を期待しています。また、看護リカレント教育センターが設置され、3年が経ちました。全国から在宅ケア認定看護師をめざす研修生が多数来ております。さらに、2023年4月から、感染管理分野認定看護師教育課程が開講し、リカレント教育はより拡大・充実したものとなっております。興味がある方は看護リカレント教育センターのホームページをぜひご覧ください。

2023年2月には国家試験が行われ、高い合格率を誇り、卒業生は全国で活躍しています。博士前期課程及び後期課程を修了した大学院生も医療や教育・研究分野で活躍しています。

今後とも、徳島大学医学部保健学科及び大学院がますます発展していきますよう、ご支援・ご高配の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



会長挨拶

—大先輩の心強い支援に感謝—

昨年度会長を拝命して、お便りとお寄付をいただいた大先輩のN様を知りました。N様のご主人より、今年もお便りと睦眉会へのご寄付、および徳島大学医学部80周年記念事業へのご寄付をいただきました。N様は、現在93歳になられ、ご夫婦で睦眉会会報などを読んで思い出話をされているようです。このように、たくさんの会員の方に温かく見守っていただいていることに感謝するとともに、心強いご支援を励みに、今後も活動してまいりたいと思います。

睦眉会は、徳島大学医学部保健学科、同大学院保健科学研究科、ならびに前身校を含めた同窓会です。平成8年に発足し、会の目的は、会員相互の親睦及び母校の発展を図り、保健医療の向上に寄与することです。会員には、卒後、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師、助産師、保健師等の免許を取得し活躍する正会員、学生は準会員、教職員等の特別会員で構成されており、令和5年4月現在の正会員数は、7,755名

徳島大学睦眉会会長
徳島大学医学部附属看護学校28期生

久米 博子



となっております。

コロナ禍での同窓会の活動は、会議や総会もWebで実施してきました。基本はパソコンの画面越し、対面できたとしても、頻度も時間も最小限にして目以外の表情が見えず、非言語の情報を受け取ることも、伝えることも難しい状況でした。社会的距離を取ることは私たちに、誰かと一緒にいることがいかに重要であり、互いにふれあうことがどれほど素敵なことかを再認識させてくれました。

今年度の総会は、ハイブリッドでの開催となりました。会長を拝命してから初めての参集による会議で、役員の方々の表情を確認しながらの会を持つことができ、対面することのすばらしさを実感しました。

結びとして、皆さまのご健康とますますのご活躍をお祈りいたしますと同時に、同窓会の運営につきまして、今後、更なる睦眉会の発展のために、引き続きご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

同窓生通信

地域の健康を支える保健師として

徳島大学医学部保健学科看護学専攻8期生
上板町役場 保健師

豊原 麻美



私は平成25年3月に徳島大学を卒業後、上板町役場にて保健師として勤務しています。現在は主に成人保健・健康増進事業を担当し、上板町保健相談センターにおいて保健衛生活動を行っています。地区分担制を基本としているため、乳幼児健診や新生児訪問、

予防接種、がん検診のほか、様々な分野の業務も行っています。

新型コロナワクチン接種をはじめ、保健師に求められる業務は社会情勢とともに大きく変化・拡大していることを実感しています。妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援のための子育て世代包括支援センターの設置や、高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施など、新たな事業も開始されています。加えて特定保健指導においては、地域の健康課題の解決のために、例えば「メタボリックシンドローム該当者・予備群の減少」など目に

見える結果を出すといったアウトカムを求められるようになりました。

年々業務量も増大していますが、どの分野においても、限られたマンパワーと時間の中で一つ一つの事例と丁寧に向き合うことの重要性を感じています。どんな支援ができるのだろうか、行動変容を促すためにどうやって関わっていけばいいのだろうか等、悩むことも多々あります。決して一人の力でできる仕事ではないので、保健師や栄養士の仲間とともに学び、連携・協力しながら、専門職としてスキルアップしていきたいと思っています。

今年度は数年ぶりに徳島大学の看護学実習を受け入れさせていただくことになり、先生や学生さんと一緒に私自身もいろいろなことを学ばせていただきました。初めに帰ることができ、とても貴重な機会となりました。

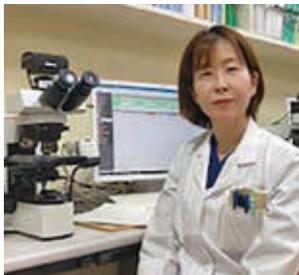
保健師として働いていると、県や他市町村の保健師と関わる機会も多く、特に同級生や同窓生と顔を合わせた際はとても心強く安心感を覚えます。人との出会いを大切に、また感謝の気持ちを忘れないようにしていきたいです。

これから保健師を目指される後輩の皆様と、どこかでお会いできることを楽しみにしています。皆様の今後の健康と益々のご活躍を願っています。

流れに乗っていく

徳島大学医療技術短期大学部衛生技術学科8期生
宮崎大学医学部附属病院 病理部

徳満 貴子



現在の職場に入職し17年が過ぎようとしています。前職でも病理検査に携わっており、経験だけは25年となりました。病理学を初めて知ったのは、徳島大学での授業でした。そして、レンブラントの絵画で

乳癌についての授業を覚えているのは、その後細胞検査士として何度もその絵画を目にしたからかも知れません。

学生時代、私達の学年は全員ひとり暮らしで、不真面目な学生だった私は、友人たちのおかげで、定期テスト、実習レポート、臨地実習と単位取得が出来、卒業することが出来ました。在学中に就職が決まらず、無職で実家へ戻り、遅れて就職した勤務先は病理標本作製のみを行う小

さな検査センターでした。研修会などに参加することもなく、5年が過ぎるころ再就職のための面接で「細胞検査士になりたい」と希望を伝えたことが病理・細胞検査を続けるきっかけになりました。細胞検査士になるには、勤務後にコツコツ勉強(一次試験)と鏡検(二次試験)をしますが、ここでも資格取得を目指す友人、仲間が出来たことで、現職にも繋がる出会いを得ることが出来ました。細胞検査士になったことが転機となり、学会等で知り合った県内外の細胞検査士の仲間(先輩、後輩)から刺激を受け、中にはプライベートで友人として旅行などするようになりました。20代の5年間、その後の5年間は非常勤でしたので、卒後の10年は不安な時期でした。現在では、病理医、上司、同僚のおかげで業務だけでなく、学会発表や研究、技師会活動をさせて頂いています。今の自分があるのは、友人をはじめ周りの人々のおかげだと心から感謝しています。

学生の頃、恩師から「流れに乗ったのよ」と教授になるまでの半生を伺ったことがあります。「何かのきっかけが出来たとき、流れに乗っていくんだな」当時、わからなかったことが、今わかるような気がしています。

何があるか分からないからこそ

徳島大学医学部放射線技術科学専攻6期生
徳島大学大学院保健科学教育部博士後期課程医用情報科学領域(令和4年修了)
徳島大学大学院医歯薬学研究部 画像医学・核医学分野

笠井 亮佑



徳島大学医学部保健学科を卒業後、徳島大学病院にて11年ほど診療放射線技師として勤務しました。現在は徳島大学大学院医歯薬学研究部画像医学・核医学分野にて助教として研究と教育に従事しています。

執筆時点では、1年前には診療放射線技師の業務に従事し、日々患者さんと接し、最新のCT装置や治療装置に囲まれながら過ごしていました。当然、自分は診療放射線技師として定年を迎えるのだと考えていましたが、同時に「危機感」を感じていました。

ちょうどその頃、人工知能が世間で盛り上がりを見せ始めたこともあり、診療放射線技師の業務について考えたのがきっかけかもしれません。その結果、業務以外に

も、好きなUnixプログラミングの学習や、フランス語検定の勉強をはじめ、病院での撮影業務だけでなく、研究活動も行うようになりました。日常業務を大切にしながら、自分にできることを考えるようになりました。

その後、大学院に入学する機会があり、修士課程・博士課程へと進学しました。大学院で受けた教育は、これまで抱いていた危機感を補完し、新たな危機感を醸成することに繋がりました。危機感はモチベーションでもあり、常に変化するものであることを自覚することで、大学院生活は非常に充実したものとなりました。

現代ではなんでも手に入る時代ですが、未来を完全に予測することはできません。「何があるか分からない」からこそ、少しの「危機感」を持ちながら人生を歩む方が楽しいと感じています。今自分が熱中していることや、一見関連のないようなことも、将来自分にとって非常に価値のあるものとして結実することがあります。今後も今を大切に、少しの危機感を持って人生を歩んでいきたいと思います。



助産師として働く中での学び

徳島大学大学院保健科学教育部看護学領域助産実践コース4期生(平成29年修了)
熊本大学病院

後藤 由水



私は2017年に徳島大学大学院を修了後、熊本大学病院で助産師として就職しました。

熊本地震の翌年の就職であったため、病院の敷地内で崩れた建物を工事していたり、県内では患者の受け入れ体勢が整っていない病院もあったりと、まだ熊本地震の爪痕が残っていました。

就職して産科病棟やMFICU(母体胎児集中治療室)で勤務し、もうすぐ7年が経ちます。就職後1年くらいは日々の業務に追われ、仕事を続けられる自信がありませんでした。しかし、今では女性の大きなライフイベントである出産に立ち会い、妊産婦さんや赤ちゃんに関わることができることに日々喜びを感じながら働くことができます。大学病院での就職ということで研修を受講する機会に恵まれており、手術部や救急外来と合同で出

血時対応や、超緊急帝王切開のシミュレーション、そして、熊本地震の反省を踏まえた災害訓練などに参加する機会もあります。少しずつですが助産師としても学習を深めることができていると感じています。

最近私が感じているのは、出産後に安心して子育てができるように環境を整える難しさです。この数年でコロナウイルス感染症が流行したことにより、病院では面会の制限があったため、妊産婦さんの家族と関わる機会が減り、家族との関係性や支援状況が見えなくなりました。コロナ禍であるため、里帰り分娩を希望せず、支援が得られない家庭環境の方もいらっしゃいました。どのような支援があれば退院後も妊産婦さんが安心して子育てができるか考えながら関わり、支援につなげることがより求められたと思います。コロナ禍でなくても地域から孤立せず安心して子育てができるよう、保健師さんや産後ケア施設など地域とも情報共有を行い、切れ目のない支援につなげていけるよう関わっていきたく思います。これからも、1日1日を大切に仕事と向き合い、助産師としてのスキルアップを目指したいと思います。



活躍する卒業生



徳島大学ホームページ、徳島大学びざん会の「ニュースレター」のコーナーに掲載されています。



徳島大学医学部附属診療放射線技師学校 昭和62年卒業
地方独立行政法人 りんくう総合医療センター
診療支援局次長 兼 放射線部門長(診療放射線技師長) 兼 危機管理室参事
公益社団法人 日本放射線技術学会 理事

中前 光弘 (なかまえ みつひろ)

略歴

昭和62年 3月 徳島大学医学部附属診療放射線技師学校 卒業
昭和62年 4月 奈良県奉職(奈良県立医科大学附属病院中央放射線部 配属)
昭和62年 5月 診療放射線技師免許取得
平成元年 7月 奈良県立五條病院 放射線科 異動
平成5年 4月 奈良県立医科大学附属病院 中央放射線部 異動
平成15年 保健衛生学 学士取得
令和2年 3月 奈良県退職
令和2年 4月 地方独立行政法人 りんくう総合医療センター入職(放射線技術科科長)
令和3年 4月 同 診療支援局 局長補佐 兼 放射線部門長
令和4年 4月 同 診療支援局 次長 兼 放射線部門長
令和5年 4月 現職

中前氏は、徳島大学医学部附属診療放射線技師学校を卒業後、奈良県職員として県立医科大学附属病院、県立五條病院の医療現場で経験を積み、保健衛生学の学位をはじめ、各種の認定資格を取得されました。また、臨床現場で放射線技術に関する研究に取り組み、デジタルX線単純撮影領域の画像処理や視覚による画像評価法の第一人者として活躍されてきました。

特に学会等の社会活動にも積極的に参加し、2019年には公益社団法人 日本放射線技術学会の理事として、プログラム委員長、学術委員長などを歴任されています。また、関西地区CR研究会、関西画像研究会など勉強会の幹事として、診療放射線技師の新人教育や卒後教育にもご尽力されています。

2020年からは、放射線技術の専門家としての豊富な知識と経験を活かし、地方独立行政法人りんくう総合医療センターで放射線部門の長のみならず、診療支援局の次長として医療専門職の中心となってチーム医療の実践や人材育成に貢献されています。



徳島大学医療技術短期大学部衛生技術学科 平成4年卒業
徳島赤十字病院検査部 技師長
一般社団法人徳島県臨床検査技師会 副会長

速水 淳 (はやみ じゅん)

略歴

平成4年 3月 徳島大学医療技術短期大学部衛生技術学科 卒業
平成4年 4月 小松島赤十字病院検査部 勤務
平成28年 4月 徳島赤十字病院検査部 技師長
現在に至る

(平成13年4月徳島赤十字病院に改称) 検査部に就職されました。入職後各部門をローテーションで回り、心エコー検査・血管エコー検査に携わるようになりました。また、検査システムの構築や病院オーダリングシステム・電子カルテシステムの検査部門の立ち上げ時には、中心的役割を担われました。

令和2年年明けからの新型コロナウイルス感染症が流行してからは、院内での検査体制の構築や流行時の検査試薬の確保等に苦労されたそうですが、部内職員の柔軟な対応により、大きな問題はなく現在までコロナ検査を実施できているとのこと。

徳島県臨床検査技師会では、平成30年度より副会長を務められており、令和4年からは徳島県での「タスクシフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会」の実技講習の実務委員責任者として講習会を開催され、徳島県の臨床検査技師の質向上・技術の充実等に大変貢献されています。

平成4年に徳島大学医療技術短期大学部衛生技術学科を卒業された後、同年4月に小松島赤十字病院

研究紹介

臨床実現を目指したMR機能イメージング研究

徳島大学大学院医歯薬学研究部 医用画像物理学分野 助教

金澤 裕樹

私の研究テーマは、“MRIを用いた非侵襲的機能画像取得法および解析に関する研究”で、MRIを中心とした定量的画像解析、非侵襲イメージング手法の開発と臨床応用、生体モデル（代謝、構造）の構築に関して研究を行っています。私は、診療放射線技師という実践的なフィールドの中で、医療または社会に貢献できることを自問自答し模索しながら研究を行ってきました。研究を中心に活動している現在でもなお、臨床現場での経験や問題提起が研究テーマの基盤となっています。その中でも、脳血管障害や脱髄疾患に対して興味を持っていましたので、脳機能MRイメージングによって病態の解明や診断能の向上を目指して研究を進めています。脳血管障害に関しては、脳梗塞の原因の1つであるアテローム硬化症に伴う血管壁プラークに着目し、プラークの物性と生体変化についてMRIを用いて定量化することで、プラーク破綻により引き起こされる脳梗塞を未然に防止することを目標としています。脱髄疾患に関しては、MRIを用いた緩和時間計測法 (relaxometry) を基盤として、髄鞘や軸索などの脳構造を定量的に可視化する技術を開発することで、通常のMRIでは検出できないとされている臨床症状と画像所見が一致しない normal apparent white matter (NAWM) を克服し、多発性硬化症などの脱髄疾患の早期診断および治療に貢献することを目指しています。さらに、化学交換飽和移動 (chemical exchange saturation transfer : CEST) -MRIの研究では、ファントム実験や動物実験による前臨床では実証できていたにもかかわらず、臨床MR装置では静磁場強度や熱吸収比 (specific absorption ratio : SAR) などの制限のために観察することが困難であった生体代謝情報に関して、臨床実現に向けて撮像パラメータを最適化し、生体のpHや温度など新たな定量値の算出手法を開発しています。最近では、拡散強調画像 (diffusion-weighted image : DWI) を用いて、非侵襲的に組織の粘度を計測する手法を開発しました。生体物質のダイナミックな粘性を定量化・可視化することで、病態の進行の把握や生体環境による組織破綻のリスクを回避することを目指しています。

こうした様々な研究を行っていく中で、その基盤となっているのは、研究室に所属している学部・大学院の学生の研究遂行力の高さです。私の研究室では、教員と学生とは対等な関係性や環境を構築し、自由な発想と科学的知見を合わせて議論しながら、新たなアイデアを創出し続けています。その成果は、国際磁気共鳴医学会 (ISMRM) や北米放射線会議 (RSNA) で数多くの演題を発表しているのも、毎年学生の目標となって日々研究に邁進しています。

興味がある方は、是非研究室にお越し下さい。お待ちしております。

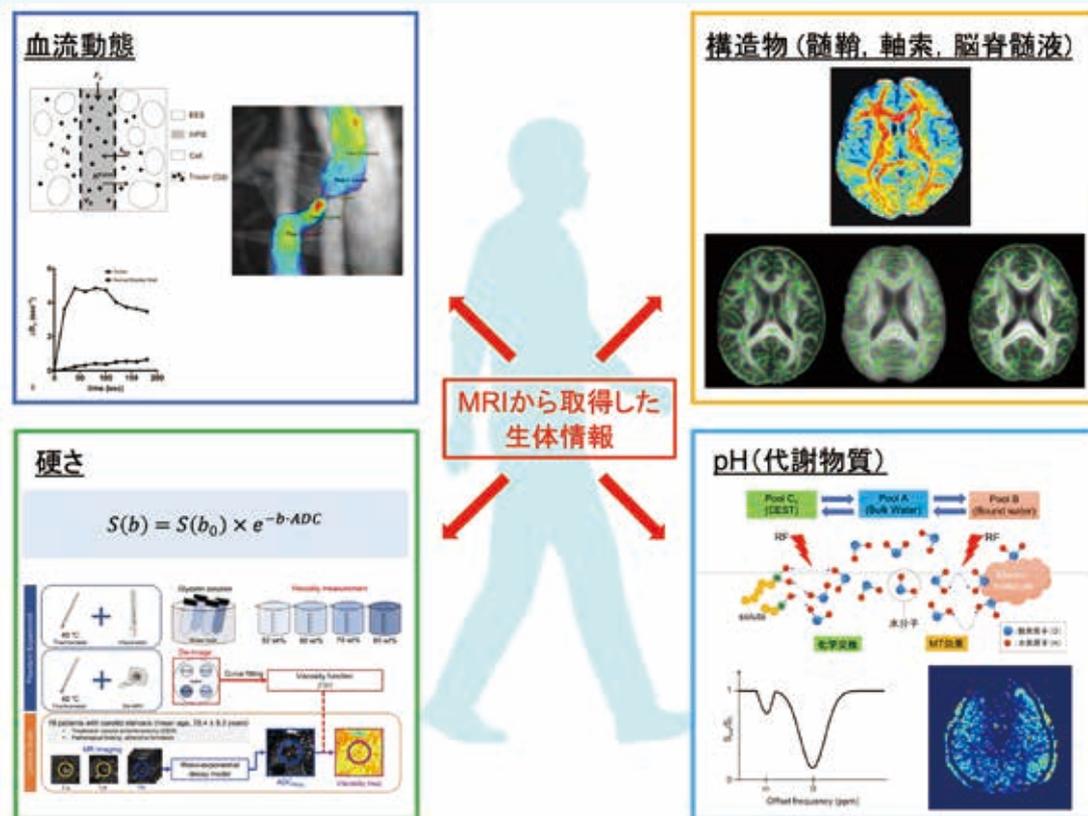


図 金澤研究室の研究概要イメージ

国際交流活動報告

保健学科、保健科学研究科における国際的取り組みについて

徳島大学医学部保健学科 国際交流委員会 委員
徳島大学大学院医歯薬学研究部 地域看護学分野 教授

岡久 玲子

徳島大学医学部保健学科 国際交流委員会 委員長
徳島大学大学院医歯薬学研究部 看護管理学分野 教授

谷岡 哲也

睦眉会の皆様には、国際交流活動に関して今年度もご寄附をいただきありがとうございます。

2023年8月9日から18日に実施した、大学院博士前期課程（英語プログラム）および博士後期課程の募集、学部生のセントポール大学フィリピン（SPUP）での英語学習についてご報告いたします。

フィリピンのツギガラオにあるSPUP、デュマゲティにあるシリマン大学、セントポール大学デュマゲティ（SPUD）、ファウンデーション大学を訪問しました。

SPUPでは、シスター・メルセディータス学長から、博士前期課程に放射線技師、検査技師、薬剤師（フィリピンでは4年制）を選抜して徳島大学に送ることを検討したいと回答していただきました。また、引き続きダブルディグリーの学生を送ることも検討してくださっています（写真左から谷岡、メルセディータス学長、タロシグ保健学部長、SPUP事務担当者、モラレス国際部長）。



シリマン大学では、理学療法、臨床検査の教員と学部生がご参集くださり、英語プログラムの話を聞いてくれました。また、学長、副学長、看護学部長とダブルディグリーについても協議し、今後も発展させていくことを確認しました。

SPUD、ファウンデーション大学でも英語プログラムの説明を行いました。これらの大学からは、徳島大学と大学間協定（MOU）を結びたい希望が聞かれた一方で、大学院がないため、徳島大学の大学院に進学希望がある旨の話がありました。

各大学ともに学長、副学長、学部長、国際部長などにお集まりいただき大変有意義な訪問となりました。帰国後、高等教育センター国際教育推進班、橋本教授との協

議により、2024年2月26日から3月8日、SPUPにおいて英語学習を行うことが決定しました。また、SPUPでは、日本語学習の希望が多いこともあり、日本語教室の教員を派遣して、2024年8月20日から9月18日に、英語学習および日本語教育体験を実施する予定です（JASSOに申請予定）。

2023年8月から9月には、保健学科看護学専攻2年生4名が、学術交流協定校であるメトロポリア応用科学大学（フィンランド）に短期留学を行いました。ここ数年、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により学部生の国際交流が中断されておりましたが、2022年10月から12月にはメトロポリア応用科学大学から2名の留学生を受け入れ、この度、徳島大学からも4年ぶりに留学生の派遣が再開されました。今年度より、海外短期留学の単位認定科目として「国際看護活動論」が開講されており、単位による修学成果測定も可能になりました。留学生は、留学期間中、英語による看護の授業を受講し、日本とフィンランドの看護や看護教育の違いを学び、また、現地での国際交流活動を通して英語によるコミュニケーション力を高めるなど、充実した留学生活を送りました。

今後とも保健学科および保健科学研究科の国際交流に、ご支援いただきますようお願い申し上げます。



退職された先生からのメッセージ

臨床検査技師教育

元徳島大学大学院医歯薬学研究部 医用検査学系 教授
徳島大学名誉教授

細井 英司



睦眉会会員の皆様におかれましてはお元気で活躍のことと存じます。令和5年3月末に定年退職いたしました。私は、平成2年に医学部保健学科の前身である医療技術短期大学の助手として赴任して以来、33年間、臨床検査技師教育に携わって参りました。この間、少子高齢化の進展や医療技術の進歩など、医療を取り巻く環境は大きく変化し、臨床検査へのニーズも多様化・専門化が進み、医療現場における臨床検査技師の役割は大きく変化しました。この変化に伴い、臨床検査技師教育も3年制教育から保健学科での4年制教育、さらに大学院における教育が行われるようになりました。このような変遷期に臨床検査技師教育に携われたことは、私の人生においてかけがえのない財産になったと思います。また、2020年からのコロナの世界的な蔓延により、約3年間、学生教育ではZoomやMicrosoft Teamsを使った遠隔での講義を経験しました。一方、研

究ではいくつかの興味あるテーマで、学部生、大学院生および分野のスタッフ教員と進めることができました。今から思うとあっという間でしたが、有意義な時間を持つことができましたと思います。この間、多くの方々にご協力とご支援をいただき、心から感謝しております。

現在、私は自宅にてもっぱら家事を担当しておりますが、10月からは非常勤講師として本学保健学科と徳島県内の看護学校での授業を週に2コマ受け持っております。また、臨床検査技師教育の一つとして、出版社からの依頼で、免疫検査学の教科書や国家試験対策のための参考書の改訂に継続して関与しております。現状でできることを今後も継続していきたいと思っております。

最後になりますが、睦眉会会員の皆様の益々のご発展をお祈り申し上げます。

令和5年度徳島びざん会報告

徳島大学睦眉会理事

徳島大学医療技術短期大学部診療放射線技術学科12期生
徳島大学大学院医歯薬学研究部 放射線治療学分野

佐々木 幹治

令和5年度徳島びざん会（旧 徳島大学同窓会連合会交流会）は、令和5年10月12日（木）に徳島グランヴィリオホテル1階、ヴィリオルームで開催されました。睦眉会からは、久米会長、事務局の梅野先生、そして私の3名で出席しました。



久米会長挨拶

学長の河村先生からは、徳島大学の組織と運営体制についての説明がありました。続いて、睦眉会を含む7つの同窓会の各代表者からは、近況報告と今年度の活動報告がありました。同窓会の活動の課題として、会員への情報提供と新たな会員確保について話し合われました。続いて、各学部・学科長からも、近況報告と今年度の活動報告がありました。具体的な内容は、地域連携、地域貢献、国際交流、教育・研究の現状や実績について説明

がありました。

新型コロナウイルス感染症の影響から回復し、通常通りの開催になったと感じました。引き続き他の同窓会と連携しながら、睦眉会をより良いものにするために最善の努力を続けていきます。



森保健学科長、細井名誉教授と共に

令和5年度 徳島大学睦眉会総会報告

(みなし総会：対面およびZoomのハイブリッド開催による役員会)

日 時：令和5年7月6日（木） 18：30～
 場 所：医学部第二会議室
 形 式：対面およびZoomでのハイブリッド開催
 参加者：対面 19名
 Zoom 6名
 委任状 2名
 合計 27名

総会次第

- 開会の辞
- 会長挨拶
- 議案審議
 - (第1号議案) 令和4年度事業報告・役員会報告
 - (第2号議案) 令和4年度会計報告・会計監査報告
 - (第3号議案) 令和5年度事業計画案
 - (第4号議案) 令和5年度予算案
 - (第5号議案) 睦眉会会則一部改正案
 - (第6号議案) 令和5年度役員改選案
- 閉会の辞

令和4年度事業報告

(第1号議案)

- 保健学科/大学院保健科学研究科 国際交流基金への寄付金贈呈
- 災害等学生支援基金として積み立て
- 入学記念品の贈呈・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 令和4年4月
- 入学式出席（会長）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 令和4年4月6日
⇒事前申込みの入学生・関係者のみの開催のため、会長参加中止
- 新入生歓迎昼食会の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 令和4年4月6日 ⇒中止
- 徳島大学びざん会（同窓会連合会） ニュースレター（活躍する卒業生）掲載・・・・ 令和4年6月、12月
- 令和4年度睦眉会総会の開催（Web会議）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 令和4年7月9日
- 第13回睦眉会主催講演会の開催（Web開催）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 令和4年7月9日
演題 「腰痛治療の最前線～華麗に加齢～」
講師 西良浩一先生（徳島大学大学院医歯薬学研究部運動機能外科学分野教授）
- 徳島大学びざん会（同窓会連合会）交流会「オンラインびざん会」への出席（会長他）
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 令和4年4月23日～令和5年3月25日（計10回）
- 徳島大学びざん会（同窓会連合会）交流会「徳島びざん会」への出席（会長他）・・・・ 令和4年10月13日
- 徳島大学びざん会（同窓会連合会）交流会「関東びざん会」（睦眉会からの参加者無し）・・ 令和4年11月13日
- 睦眉会会報（第22号）の発行・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 令和5年2月21日
- 卒業式出席（会長）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 令和5年3月23日
⇒事前申込みの卒業生・修了生・関係者のみの開催のため、会長参加中止
- 医学部各賞授与式出席（会長）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 令和5年3月23日
- 卒業・修了記念品の贈呈・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 令和5年3月23日

(第1号議案)

役員会報告

1. 役員会・総会開催状況（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

年度	回数	開催日	場所	参加人数
R.4	1回	令和4年4月21日(木)	Web会議	24名
	2回	令和4年5月25日(水)	Web会議	26名
	3回	令和4年6月27日(月)	Web会議	27名
		令和4年度睦眉会総会開催 令和4年7月9日(土)	Web会議	41名
	4回	令和4年8月8日(月)	Web会議	26名
	5回	令和5年2月9日(木)	Web会議	22名

2. 各種委員会開催状況

委員会名	回数	開催日	場所	参加人数
会報委員会	1回	令和4年9月8日(木)	Web会議	13名
	2回	令和4年11月28日(月)	Web会議	11名
	3回	令和4年12月22日(木)	Web会議	10名
	4回	令和5年1月19日(木)	Web会議	8名
総会オンライン開催ワーキンググループ検討会	1回	令和4年4月20日(水)	Web会議	6名
	2回	令和4年5月12日(木)	放射線機器工学実習準備室	6名
	3回	令和4年7月7日(木)	放射線機器工学実習準備室	6名
ホームページ委員会		随時		3名

3. 役員会・委員会における主な協議事項

- 睦眉会総会・講演会について
- 睦眉会役員改選について
- 睦眉会会則の改正について
- 睦眉会会報の発行について
- 睦眉会の役員委員会の活動について
- 徳島大学びざん会（同窓会連合会）への協力について
- 保健学科・保健科学研究科国際交流基金への寄付金贈呈について
- 災害等学生支援基金について
- 入学記念品贈呈について
- 卒業・修了記念品贈呈について
- 睦眉会総会・講演会のオンライン開催について

* (第1号議案)令和4年度事業報告・役員会報告は、すべて承認された。

(第 2 号議案)

令和 4 年度 睦眉会 会計報告

(令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日)

一般会計

【収入の部】

(単位 円)

項 目	予算額	決算額	増減額
前年度繰越金	3,967,441	3,967,441	0
本部会費(138名分)	2,760,000	2,760,000	0
貯金利子	20	26	6
寄付金(1名)	0	10,000	10,000
収入合計	6,727,461	6,737,467	10,006

【支出の部】

(単位 円)

項 目	予算額	決算額	増減額
総会費用	70,000	80,095	10,095
印刷費・送料(会報代を含む)	1,500,000	1,623,749	123,749
会議費	200,000	149,712	△50,288
慶弔費(入学・卒業記念品、退職教員記念品代を含む)	800,000	775,850	△24,150
保健学科/保健科学研究科の国際交流基金への寄付金	100,000	100,000	0
災害等学生支援基金への積立金	100,000	100,000	0
会報委員会活動費用	50,000	9,258	△40,742
事務局運営費	200,000	200,000	0
雑費	60,000	47,538	△12,462
支出小計	3,080,000	3,086,202	6,202
予備費	3,647,461	0	△3,647,461
次年度繰越金	0	3,651,265	3,651,265
支出合計	6,727,461	6,737,467	10,006

特別会計

【収入の部】

(単位 円)

項 目	予算額	決算額	増減額
前年度繰越金	0	0	0
災害等学生支援基金積立金	100,000	100,000	0
収入合計	100,000	100,000	0

【支出の部】

(単位 円)

項 目	予算額	決算額	増減額
災害等学生支援事業	0	0	0
予備費	100,000	0	△100,000
次年度繰越金	0	100,000	100,000
支出合計	100,000	100,000	0

令和 5 年 3 月 31 日 会計 佐々木幹治

会計監査報告

令和 4 年度会計報告書を監査いたしました。
会計処理は適正に、正確に処理されていることを証明いたします。

令和 5 年 5 月 23 日 監事 森 さゆり
監事 (代理) 竹林 桂子

* (第 2 号議案) 令和 4 年度睦眉会会計報告・会計監査報告は、すべて承認された。

(第 3 号議案)

令和 5 年度 事業計画

- 保健学科/大学院保健科学研究科 国際交流基金への寄付金贈呈
- 災害等学生支援基金として積み立て
- 医学部80周年記念事業基金への寄付金贈呈
- 入学記念品の贈呈
- 入学式出席(会長)
 - ⇒事前申込みの入学生・関係者のみの開催のため、会長参加中止
- 新入生歓迎昼食会の開催
- 徳島大学びざん会(同窓会連合会) ニュースレター(活躍する卒業生)掲載
- 令和 5 年度睦眉会総会の開催(ハイブリッド会議)
- 医学部80年史への原稿作成協力
- 徳島大学びざん会(同窓会連合会)交流会「オンラインびざん会」への出席(会長他)
 - 令和 5 年 4 月 22 日～令和 6 年 3 月 23 日(計 9 回の予定)
- 徳島大学びざん会(同窓会連合会)交流会「徳島びざん会」への出席(会長他)
- 徳島大学びざん会(同窓会連合会)交流会「近畿びざん会」への出席(会長他)
- 睦眉会会報(第23号)の発行
- 医学部創立80周年記念式典への参加
- 卒業式・医学部各賞授与式出席(会長他)
- 卒業・修了記念品の贈呈

* (第 3 号議案) 令和 5 年度 事業計画案は、提案通り可決された。

(第 4 号議案)

● 令和 5 年度 睦眉会予算 ●

(令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日)

一般会計 【収入の部】

(単位 円)

項目	前年度予算額	今年度予算額	増減額
前年度繰越金	3,967,441	3,651,265	△316,176
本部会費(137名分)	2,760,000	2,740,000	△20,000
貯金利子	20	20	0
収入合計	6,727,461	6,391,285	△336,176

【支出の部】

(単位 円)

項目	前年度予算額	今年度予算額	増減額
総会費用	70,000	40,000	△30,000
印刷費・送料(会報代を含む)	1,500,000	1,500,000	0
会議費	200,000	300,000	100,000
慶弔費(入学・卒業記念品、退職教員記念品代を含む)	800,000	800,000	0
保健学科/保健科学研究科の国際交流基金への寄付金	100,000	100,000	0
医学部80周年記念事業への寄付金	0	500,000	500,000
災害等学生支援基金への積立金	100,000	100,000	0
会報委員会活動費用	50,000	50,000	0
事務局運営費	200,000	200,000	0
雑費	60,000	50,000	△10,000
支出小計	3,080,000	3,640,000	560,000
予備費	3,647,461	2,751,285	△896,176
支出合計	6,727,461	6,391,285	△336,176

特別会計 【収入の部】

(単位 円)

項目	前年度予算額	今年度予算額	増減額
前年度繰越金	0	100,000	100,000
災害等学生支援基金積立金	100,000	100,000	0
収入合計	100,000	200,000	100,000

【支出の部】

(単位 円)

項目	前年度予算額	今年度予算額	増減額
災害等学生支援事業	0	0	0
予備費	100,000	200,000	100,000
支出合計	100,000	200,000	100,000

* (第 4 号議案) 令和 5 年度睦眉会予算案は、提案通り可決された。

(第 5 号議案)

睦眉会会則一部改正

● 徳島大学内組織の名称変更のため、下記の通り朱書き部分のみ会則を一部改正する。

新	旧
<p style="text-align: center;">第 4 章 会 員</p> <p>第 4 条 本会は、正会員、準会員及び特別会員をもって組織する。</p> <p>2 正会員は、次の各号に掲げる者とする。</p> <p>一 徳島大学大学院保健科学研究科修了生</p> <p>二 徳島大学大学院保健科学教育部修了生</p> <p>三 徳島大学助産学専攻科修了生</p> <p>四 徳島大学医学部保健学科卒業生</p> <p>五 徳島大学医療技術短期大学部卒業生</p> <p style="text-align: center;">：(中略)</p> <p>十七 徳島大学医学部附属助産婦学校卒業生</p> <p>十八 第一号から第十七号に掲げる学校又は養成所に在学していた者で役員会が推薦した者</p> <p>附 則</p> <p>この会則は、平成 8 年 1 月 20 日から施行する。</p> <p style="text-align: center;">：(中略)</p> <p>この会則は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。</p> <p>この会則は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。</p>	<p style="text-align: center;">第 4 章 会 員</p> <p>第 4 条 本会は、正会員、準会員及び特別会員をもって組織する。</p> <p>2 正会員は、次の各号に掲げる者とする。</p> <p>一 徳島大学大学院保健科学教育部修了生</p> <p>二 徳島大学助産学専攻科修了生</p> <p>三 徳島大学医学部保健学科卒業生</p> <p>四 徳島大学医療技術短期大学部卒業生</p> <p>五 徳島大学医療技術短期大学部専攻科修了生</p> <p style="text-align: center;">：(中略)</p> <p>十六 徳島大学医学部附属助産婦学校卒業生</p> <p>十七 第一号から第十六号に掲げる学校又は養成所に在学していた者で役員会が推薦した者</p> <p>附 則</p> <p>この会則は、平成 8 年 1 月 20 日から施行する。</p> <p style="text-align: center;">：(中略)</p> <p>この会則は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。</p>

* (第 5 号議案) 睦眉会会則一部改正案は、提案通り可決された。

(第6号議案)

令和5年度 睦眉会役員

(2023年7月6日～)

役 職	氏 名	所 属	勤 務 先	
名誉会長	森 健 治	学科長	徳島大学医学部保健学科長 (徳島大学大学院医歯薬学研究部)	
会 長	久 米 博 子	看	徳島大学病院	
副会長	尾 形 美 子	看	徳島大学病院	
	川 田 直 伸	放	徳島検診クリニック	
	江 原 隆	検	徳島県立中央病院	
	後 藤 さおり	助	徳島大学病院	
理 事	事務局	梅 野 真由美	検	
		富 永 辰 也	検	徳島大学大学院医歯薬学研究部
	会 計	佐々木 幹 治	放	徳島大学大学院医歯薬学研究部
		千 葉 進 一	看	徳島大学大学院医歯薬学研究部
	総 務	富 永 正 英	放	徳島大学大学院医歯薬学研究部
		安 藝 健 作	検	徳島大学大学院医歯薬学研究部
理 事	看	竹 林 桂 子	助	徳島大学大学院医歯薬学研究部
		藤 村 ひとみ	看	徳島大学病院
		三 木 こずえ		徳島大学病院
		米 田 好 美		四国大学看護学部
		明 石 晃 代		徳島大学病院
	堤 理 恵	徳島大学大学院医歯薬学研究部		
	放	栗 本 佐知子	四国大学看護学部	
		天 野 雅 史	徳島大学病院	
		山 田 健 二	徳島大学病院	
		佐 藤 隆 文	徳島県立中央病院	
		佐 藤 雅 美	徳島大学病院	
	検	藤 野 恵	徳島大学病院	
		田 中 真 弓	徳島県立中央病院	
		助	原 田 美佐子	みさ子助産院
			大 西 真理子	徳島大学病院
佐 藤 浩 子			徳島大学大学院医歯薬学研究部	
監 事	高 橋 久 美	看	徳島大学大学院医歯薬学研究部	
	森 さゆり	検	徳島大学病院	
アドバイザー	橋 本 公 子	助	ウェルネス橋本助産所	

* (第6号議案) 令和5年度睦眉会役員改選案は、提案通り可決された。

編集後記

皆様、お元気でお過ごしでしょうか。第23号の会報発行にあたり、会報委員会の皆様をはじめ、ご執筆頂いた皆様に深く感謝申し上げます。

令和5年は新型コロナウイルスが5類に下がり、仕事や日常生活において様々な変化を感じる1年となりました。

令和5年はうさぎ年ということで、私たちの身の回りでも「飛躍・跳躍、向上の年」の象徴が見られました。特に注目すべきは、人工知能 (AI) の技術の進歩です。ChatGPT、音声合成AIなど、AI技術が益々身近な存在となり、私たちの日常に深く関わってきていると感じています。放射線技師の仕事においてもCTやPET検査などの画像再構成

にディープラーニングが活用され、仕事面でも深い関わりを感じています。

うさぎ年といえば、実は我が家では日本アンゴラうさぎを飼っており、仕事の無い日はお世話に奔走しております。仕事の疲れをうさぎで癒し、なんとか日々の健康を保っています。

会員の皆様におかれましては、健康に留意して、健やかにお過ごしください。



睦眉会会報委員 佐藤 隆文

徳大ニュース

徳島大学に関するニュースをお届けします。詳細は、本学HPをご覧ください。徳島大学総務部未来創造課未来創造係では、本学の卒業生・修了生、学生、教職員が親睦を深めるための交流会として毎月1回「オンラインびざん会」を開催しております。過去の開催の様子は、徳島大学オンラインびざん会YouTubeチャンネルよりご覧いただけます。皆様のご参加をお待ちしております。

1 徳島大学ビジョン「INDIGO宣言」を策定しました

徳島大学では、学長のリーダーシップのもと、本学が育成する人物像や目指す方向性を明確にし、それを学内外のステークホルダーに向けて示すため、徳島大学ビジョン「INDIGO宣言」を策定しました。徳島大学が育成する人物像や目指す方向性を、Integrity（誠実さ）、Noble and Novel（高潔さと斬新さ）、Dynamism and Diversity（活力と多様性）、Inclusive（寛容）、Global（世界への発信）、Open（開かれた大学）の6つに絞り、ビジョンの呼称は徳島県の伝統的な染物である阿波藍にちなんで「INDIGO宣言」としました。

「INDIGO宣言」の新しい情報を随時更新していますので、ご注目ください。

INDIGO宣言ホームページ



2 学部の周年事業をご案内します

各学部におかれては、昨年度から周年事業が続いています。今年度は医学部が創立80周年を迎え、創立80周年記念事業基金の支援事業を開始しており、記念式典などは、2024年2月に予定されています。

遡りますと、2022年10月に工学部が創立100周年を迎え、記念式典が2023年5月14日に挙行されました。本来であれば、100周年を迎える時期に開催される予定でしたが、コロナ禍のため、半年ほど延期を余儀なくされ、関係者のご苦労がしのばれました。

また、2023年11月3日には、薬学部が創立100周年を迎え、同日に記念式典、講演会、ホームカミングディなどの行事が行われました。

来年度は総合科学部が創立150周年を迎えられ、周年事業の準備が行われています。

各学部におかれては、創設の時代から、長年にわたり、様々な組織の統合や改組を繰り返しながらも、同窓会の方々のご支援をはじめ、地域の皆さまの応援をいただきながら、たくさんの優秀な人材を輩出されてきました。徳島大学の発展には、その歴史と伝統があってこそであり、これからも本学が変化する時代に対応し、さらなる飛躍をするため、大学や学部への皆さまのご理解、ご支援を賜りますようお願いいたします。

医学部をはじめ、各学部の周年事業については、それぞれの学部ホームページをご覧ください。

3 徳島大学基金のプロジェクトサイトを公開しました

このたび、徳島大学基金のプロジェクトをご紹介するサイトを公開しました。寄附目的別のプロジェクトの紹介やご厚志をいただいた寄附者様からのあたたかいご支援の紹介を行っています。今後も徳島大学へのご理解とご支援を賜れますよう、教職員や学生の情報発信とご支援を活用しましたプロジェクトの実施報告を新しいホームページで発信してまいりますので、ぜひご覧ください。

徳島大学基金
プロジェクトサイト



4 同窓生・基金係が未来創造係になりました

令和5年度より、未来創造課の同窓生・基金係を「未来創造係」と名称変更を行いました。業務はこれまでと変更はございません。

同窓生の皆さまと大学の架け橋になるよう、今後とも尽力いたしますので、よろしくお願いいたします。

徳島大学公式SNSとびざん会HPのご案内

公式SNSでは、徳島大学の情報をいち早くみなさまにお届けしています。学生活動や入試、奨学金などの情報をはじめ、日々の何気ないキャンパス風景など、学生広報スタッフも記事を掲載し、活躍しておりますので、応援してください。

徳島大学公式X
(旧Twitter)



徳島大学未来創造係Facebook



徳島大学びざん会



徳島大学オンラインびざん会
(YouTubeチャンネル)

